

第 647 回：【4 年生向け】期限ギリギリで卒論を完成させるには？ (DM)

みなさま、こんにちは。LA 毎週木曜 13:30~16:30 の担当、博士課程の DM です。今回は、少し予定を変更し、前回同様、卒論に取り組む四年生に向けた内容をお届けします。すなわち、「期限ギリギリで卒論を完成させるには？」。

さて、ここでは、四年生後期、10 月末頃になっても卒論研究があまり進んでいない、という状況を「ギリギリ」と設定します。このような危機的な状況に立たされた場合、どのような戦略をとるべきか？ 私なら、「**身近な大学図書館（外大図書館）の資料の中で可能な問題設定を行い、その解決に専念する**」という戦略をとるでしょう。

一般的には、1) 先行研究に結び付いた問題設定を論理的に行うことができるか、2) その問題が論理的に解決されているか、が卒業論文の評価基準になります。ここでいう「論理的」とは、根拠がある、ということです。言い換えれば、1) 根拠ある問題設定と、2) 根拠ある問題解決が、「ギリギリ」の四年生の課題です。これを達成したい。

そこで、まずは「1」。論理的な問題設定には、「なぜこの問題を設定しているのか」という具体的な根拠が必要です。そしてその根拠は、一般的に、「先行研究のこの箇所に問題がある」という点に求められます。ならば、問題設定を「先行研究の検討から始める」という戦略が有効でしょう。同じ事柄を論じている先行研究が複数あれば、それらの議論の中で、I) 共通している意見と、II) 異なっている意見を列挙することができます。この「I」を「論じるべき重要な主題」に、「II」を「解決すべき問題」にすれば、この時点で、

具体的な根拠のある問題設定の完成です。

とはいえ、先行研究の収集にもそれ相応の時間がかかります。そこでもう一工夫。「**外大図書館所蔵の資料の中から設定可能な問題を見つけること**」。問題設定を手近な資料で可能な範囲に限定するならば、その分の時間を省くことができるというわけです（少し邪道ですが）。たとえば、外大図書館には、『埴谷雄高論』（1972）や『武田泰淳研究（増補版）』（1980）という論集が所蔵されていて、同じ作家に関する複数の論者の論考が数十本も収録されています。これをザッと読み比べると、上の「I」と「II」の根拠として引用すべき箇所を見つけることが可能になります。資料の古さは難点ですが、こういう資料が外大図書館にあるかどうかで研究テーマや研究対象を絞り込むのも戦略のひとつです。

ここまで来たら、「2」に取り掛かります。これは単純。先行研究から指摘できる問題の中から、「**できる限り小さな、明らかに解決可能な、自分でもちょっと物足りないと思うくらいの問題を選ぶ**」。論文の評価は論証の確実さによって決まります。逆に言えば、証明可能であれば、扱う問題が小さくてもよいのです。ましてや、今回は時間がない。ここは割り切って、「**今の自分にとって解決が最も容易な問題**」を見極め、それを論文としてまとめる作業に専念すべきでしょう。野心よりも確実さ、です。

ここまでできたら、後は、年末年始を使えば「ギリギリ」間に合うでしょう。肝心なのは、**諦めないこと**、です。

今回の LA 通信はここまで。次回もどうぞ

第 647 回：【4 年生向け】期限ギリギリで卒論を完成させるには？（DM）

よろしくお願いします。

参考文献

小笠原喜康、片岡則夫『中高生からの論文入門』（講談社現代新書；2511）、講談社、2019 年：閲覧室入口正面、K2511

ケイト・L・トゥラビアン[編]（沼口隆、沼口好雄[訳]）『シカゴ・スタイル研究論文執筆マニュアル』慶應義塾大学出版会、2012 年：閲覧室入口正面、N836.5==62

小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』（講談社現代新書；2660）講談社、2022 年：閲覧室入口正面、K2660

戸田山和久『論文の教室：レポートから卒論まで』（NHK ブックス, 1272; 最新版）NHK 出版、2022 年：閲覧室入口正面、N816.5==140